

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部理学療法学科

名前 田中 勇治

作成日 2021年4月28日

【責任】

保健医療学部理学療法学科に所属し理学療法士の資格を有している。教育活動によって理学療法士を養成することが大きな責任である。主な教育活動は授業、臨床実習指導、ゼミ生の卒業研究指導及び就職支援、国家試験学習対策などである。授業では、主に解剖学（解剖学Ⅰ・Ⅱ解剖学演習）と地域理学療法学を担当し、そのほか神経内科学と理学療法学研究を一部担当している。学外での臨床実習では事前事後指導と巡回指導を行っている。

【理念】

保健医療福祉に関係する領域の変化は激しい。理学療法士の働く領域は資格の創設当初と比較し大きく広がっている。これらの変化を受け入れながら自分自身が進む方向を自分自身でみつけて進んで行くことができるようになってもらいたいと考えている。

医療専門技術職種である理学療法士は専門性が高く、変化の速い世界であるのでこれらに対応する能力が求められる。基礎的な知識を確実に身につけること、自ら関心を持って学ぶことができること、自立して学修する力を身につけること、及び多様なことと新しいことを受け入れやすいことが大切であると考えている。その中から自らが何かを発見し、新しい方法を開発する力を身につけてほしいと考えている。

【方針・方法】

理念の実現に向けて 授業に集中できるようにする、予習・復習の習慣がつくようにする、自主性を身につけるようにする、基本事項を守ることを示す、学外講師を招聘することを実施している。

1. 授業への集中

講義科目で傾聴時間が長くなると居眠りや私語が増えるため、授業を3分割くらいにして息抜きと復習を行う時間を確保し、事前配付資料で分割した時間ごとに復習項目を設定し復習を促している。この復習時間は対面授業の際には周辺席の学生との対話は可としている。また、授業全体を通して私語が増えたら必ず注意し集中を促している。

2. 予習・復習の習慣化

初回授業時や小テストの成績が低調な場合には、過去の学生の小テストと期末試験の相関が高いことを例として予習を促し、配付資料には最低限必要な項目を提示している。また、教科書を読むように促し、基本的に配付資料には教科書の図は入れないようにしている。講義科目では終了時に小テストを実施し、演習科目では前回授業分を開始前に小テストを実施している。小テストは HUS-MOODLE で実施し、何回でも受験できるように設定し復習に活用できるようにしている。

3. 自主性の獲得

演習授業では、自学を中心にするようにしている。解剖学演習では模型観察を4人程度のグループに分けて予習時間と模型観察を設定し、グループ学習を実施している。

卒業研究では、研究テーマの設定は可能な範囲で学生の発案を尊重し、研究計画の作成、データ取り、卒業論文の完成までを自主的に実施できるように指導している。また質問等があった場合には学生の話の話を十分に聞いてから応えるようにしている。

4. 基本事項を守ること

授業時間と休憩時間のメリハリをつけるため、開始と終了時間の厳守と挨拶を実施している。相談等に来る際には必ず予約と確認をするように促している。また質問や相談に来たら、所属と名前を言うように促している。

5. 学外講師の招聘

広い分野で活動し著名な学外の講師（客員教授）を招聘し、その講義を通して理学療法領域の広がりや活躍する分野に視野を広げられる契機を提供している。

【成果・評価】

- ・担当科目の授業アンケートの結果から、概ね高評価を受けている。自学時間の量からは自主的な学習時間が増えていることがうかがえる。自由記載からは解剖学に関心を持つ学生が出てきたことが分かった。
- ・校内での他教員からの評価では、学生同士での共同学習の機会が増えたことが分かった。
- ・国家試験とその模擬試験の分析で、基礎分野の平均得点が全国平均より高くなっていることが分かった。
- ・国家試験対策として、学生から「解剖学について話してほしい」との申し出を過去に複数回受けており、受験学生からその対策のための内容について概ね好評であったとの評価を得ている。
- ・卒業研究では、学生自身が考えた内容の研究が完了し手順を踏まえて卒業論文を完成させることができた。

【目標】

- ・授業案を工夫し授業内容への関心を高める。（短期目標）
- ・国家試験模試の基礎分野の平均点を全国平均より5点以上高くする。（短期目標）
- ・医療技術職という職業であるため、人の構造と機能に関心と敬意を持って臨むことができるようにすること。（長期目標）
- ・学生自身が卒業後も自ら学習し成長できるようにすること。（長期目標）